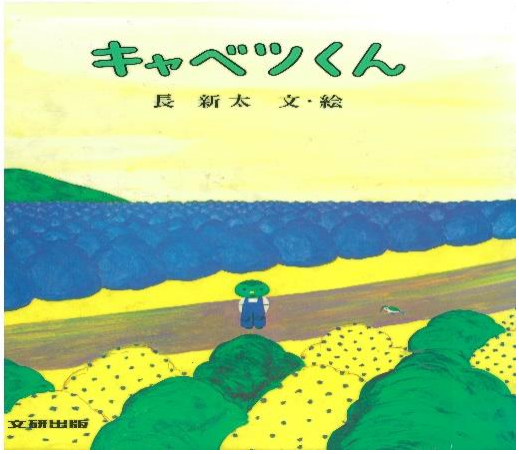
えほん・絵本・EHON・Picture Book No.12

『キャベツくん』



長　新太　文・絵
文研出版　　1980

短い言葉で　はげましてくれる。

職場の友人 K さんに「感謝の言葉はスミマセンじゃない。アリガトウっていうのよ。」と教えられました。K さんは人形劇や読み聞かせをする会で活動していて、「お子さん連れておいでよ」と読み聞かせの会に誘ってくれました。30 年も前の事です。息子の手を引いて参加したおはなし会、その場で読まれたのがこの本でした。K さんが明るく力強い声で読んでくれた『キャベツくん』は私の大切な 1 冊です。

先日、92 歳の現役ベテラン先生の“絵本の選び方”についてのお考えを紹介しました。絵本はコミュニケーションの道具だから、「この本読んで」と子どもが差し出す本をそのまま受け取って、一緒に楽しむ幸せな時間をお持ちなさいと勧めて下さっています。
だから私は思います。何を読むかも大切。誰がどう読むかも同じくらい大切。

キャベツくんとおなかをすかせたブタヤマさんのちょっとハラハラする出会い、ナンセンス？なやりとり。
K さんはキャベツくんの決め台詞「こうなる。」を、澄んだ明るい声で大きくハッキリと読みました。「こうなる。」と自信をもって宣言する読み方に、泣き言を言わないキャベツくんの勇気や賢さが感じられます。「じゃあ・・・」とキャベツくんに質問してしまうブタヤマさんの素直さも可愛い。「こう」と「なる」を、間をあけて読む K さんの「こう　なる！」が繰り返されるたびに、会場にはくすくす笑いが広がります。最後には聞いていたみんながキャベツくんとブタヤマさんを好きになっていました。
大人も子どもも広い空の下で風に吹かれているようないい気持ちを味わいました。それで、おしまい。

大雨・台風・そしてコロナ…いいことばかりではなかった夏が終わると読書の秋が来ます。
絵本はいい。絵本を好きになれる大人は素敵です。好きな絵本があることは幸せです。短い言葉に自分の気持ちを託して読んであげたい、と思います。

おまけですけど、このおはなし会に参加した息子は「何も覚えてない。」のだそうです。やっぱりか・・・

2020 年 9 月 17 日　　梅崎啓子